

3 単語の類別・品詞

単語の類別

単語は、次のような点から分類することができる。

- **自立語・付属語** 単語は、単独で一つの文節を作ることができる**自立語**と、必ず自立語と一緒にいっしょになって文節を作る**付属語**とに分けられる。一つの文節には、文節の頭に必ず一つの自立語があり、単独の場合と、そのあとに付属語がいくつかつく場合がある。

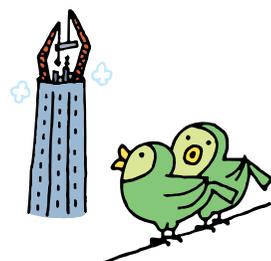
自立語	自立語	自立語	自立語
とても	高い	ビル	建つ
		／	／
		が	らしい
			／
			ね

- **活用のある単語・活用のない単語** 単語の形が、文の中で、あとに続く語に合わせて規則的に変わることを**活用**という。自立語にも付属語にも、活用のある単語とない単語とがある。

活用なし	活用あり	活用なし	活用なし
とても	高い	ビル	が
		／	／
		建つ	らしい
		／	／
			ね

- **体言と用言** 自立語で活用がなく、主語になれる単語を**体言**という。自立語で活用があり、単独で述語になれる単語を**用言**という。

用言	体言	用言
とても	高い	ビル
	／	／
	が	建つ
	／	／
		らしい
		／
		ね



- * **自立語・付属語** 一つの自立語に多くの付属語がついて一文節となることがある。
忘れ／られ／なかつ／たろ／う。

- * **活用のある単語・活用のない単語** 次のような単語の変化が活用である。
高いー高かった・高くなる・高ければ
……
建つー建たない・建ちます・建てば
……
らしいーらしかった・らしくて……



品詞

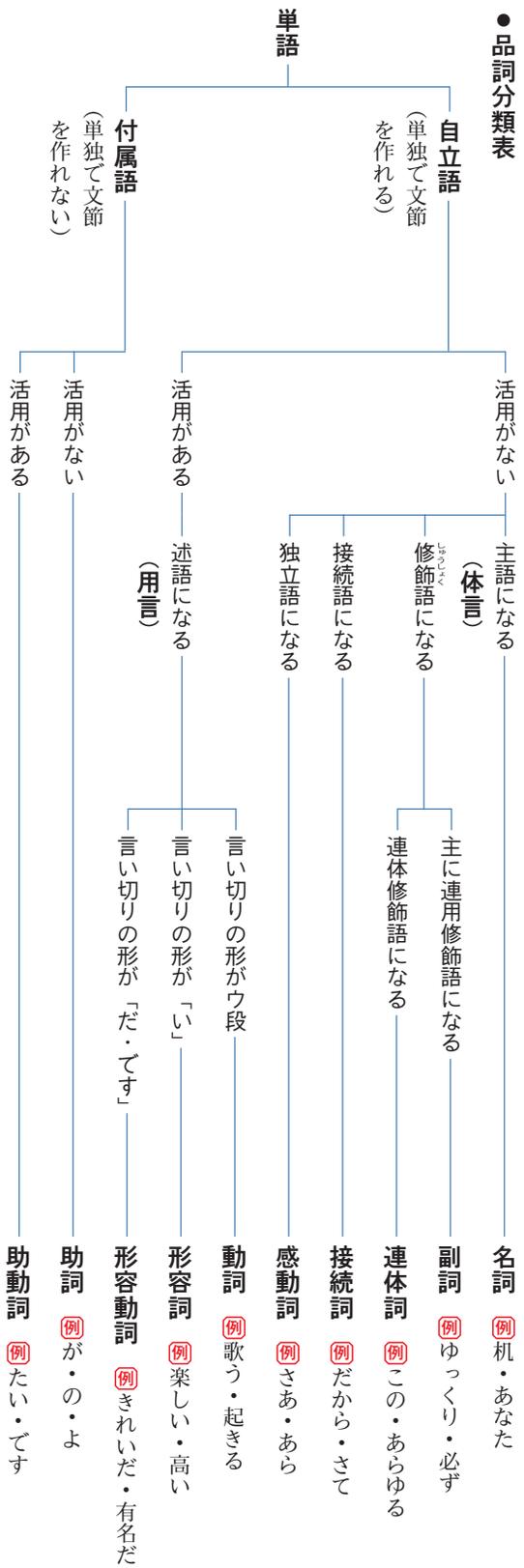
単語を、形やはたらきの違いちがによって分類したものを品詞しんごという。

● **品詞の種類** 単語は通常、**名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・動詞・形容詞・形容動詞・助詞・助動詞**の十種類に分類される。名詞が体言たいごんに、動詞・形容詞・形容動詞が用言ようごんに相当する。

● **品詞の転成** ある単語が形やはたらきを変えて、別の品詞になること。

- 例 ① 楽しい (形容詞) ↓ 楽しさ・楽しみ (名詞) ② 楽しい (形容詞) ↓ 楽しむ (動詞)
- ③ 動く (動詞) ↓ 動き (名詞)

● 品詞分類表



4 名詞

名詞の性質と分類

名詞は、人や物、事柄などを表す単語で、助詞を伴って主語になる他、修飾語や述語などさまざまな文の成分になる。

例 私修飾語の主語弟主語は述語小学生だ。

明日主語は修飾語姉修飾語の述語誕生日述語です。

明日修飾語、午後修飾語に主語生徒会主語が述語あります。

● 名詞の種類 名詞は次のように分類される。

普通名詞 人・犬・机・学校・運動・規則 など

固有名詞 大阪・万葉集・芥川龍之介 など

数詞 一本・五時・十日間・六番・二千元 など

形式名詞 話すこと・話すとき・(ちょうど)着いたところ・

あのかた・自分のため など

代名詞 私・君・彼かれ・これ・あちら・どこ など



* 名詞の性質と分類 名詞は単独でもい

ろいろな文の成分になることができる。

● 雨、やまないかなあ。

〔主語〕

● 春は桜。秋はもみぢ。

〔述語〕

* 代名詞 代名詞は更に次の二つに分

けられる。

● 人称代名詞 私・君・彼女……

● 指示代名詞 これ・あれ・そこ……



参考

さまざまな助数詞

木を数えるときは「一本、二本……」、陸上選手の手ゴール順は「一着、二着……」などといま
す。このような、ものを数えるときに、数字のあとにつく「本」や「着」のような言葉を助数詞と
いいます。

- **文房具**
鉛筆 — 本・ダース
- 本 — 冊・部
- 紙 — 枚
- すずり — 面
- 半紙 — 帖
- **生活**
家 — 戸・軒・棟

- 椅子・机 — 脚
- 写真 — 枚・葉
- 畳 — 畳・枚
- たんす — 本・竿
- 布団 — 枚・組
- ベッド — 台
- 鏡 — 面
- 人形 — 体
- 新聞 — 部・枚
- 箸 — 膳
- タオル — 枚・本・筋
- はさみ — 丁
- テレビ — 台
- 包丁 — 丁・本
- **食べ物**
ご飯 — 杯・膳
- 汁 — 椀・杯
- 茶 — 杯・服
- 食パン — 斤・枚
- 食事 — 食
- 料理 — 皿・品・人前
- 豆腐 — 丁

- ざるそば — 枚
- 団子 — 串・本
- 切り身 — 切れ
- バナナ — 本・房
- スイカ — 玉
- 板チョコ — 枚・欠け・箱
- ピザ — 枚
- 羊羹 — 竿
- **身につけるもの**
薬 — 錠・粒・服・包
- 洋服 — 着
- 和服 — 枚・重ね
- 靴・靴下 — 足
- 手袋 — 組・双
- ネクタイ — 本
- **動物**
大きい動物 — 頭
- 小さい動物 — 匹
- 魚 — 匹・尾
- 鳥 — 羽
- 鯨・イルカ — 頭
- イカ・タコ — 杯

- 昆虫 — 匹
- ウサギ — 羽・匹
- ペンギン — 頭・羽
- **植物**
花 — 輪・本
- 枝 — 枝・本
- 花びら — 枚・ひら
- 植木 — 株
- **交通・通信**
自動車 — 台・両
- 飛行機 — 機
- 船・舟 — 艘・隻
- 観覧車 — 基・台
- 手紙 — 通・本
- はがき — 枚・葉
- サーバー — 台・基
- **スポーツ・趣味**
グラウンド — 面
- ボール — 球・個
- 試合 — 戦・試合
- 短歌 — 首
- 俳句 — 句

- 落語 — 席
- 能 — 番
- 芝居 — 幕・景・場
- 将棋 — 局・番
- 相撲 — 番・指し
- ピアノ — 台
- ヴァイオリン — 丁
- オーケストラ — 団・座
- **その他**
山 — 座
- 汗 — 粒・滴・筋
- 天の川 — 筋・条・帯
- 順序 — 番・位・等・着
- 投票 — 票

※ここで示した数え方は一例です。

5 副詞・連体詞・接続詞・感動詞

副詞の性質と分類

副詞は、自立語で活用がなく、文の中では主に、用言が主となる文節を修飾する連用修飾語になる。修飾される言葉の状態や動作がどのようなものであるかを、詳しく説明する。副詞は次のように分類される。

● 状態の副詞 動作や作用の様子を表す。擬声語（擬音語）・擬態語も含まれる。

例 ① 雲が ゆっくり 流れる。

② 象が ののしり 歩く。

③ 雨が しとしと 降る。

● 程度の副詞 主に形容詞や形容動詞が意味する、物事の性質や状態などの程度を表す。

例 ① 私は 少し うれしかった。

② この店の料理は たいへん おいしい。

③ このクラスは とても にぎやかだ。

● 陳述（叙述）の副詞 話し手の気持ちや判断、述べ方を表す。文末などに現れる、依頼や疑問などの決まった表現とともに用いられる。

例 ① きっと 明日は 晴れるだろう。

② ぜひ 文化祭に 来て ください。

「予想や想像」

「依頼」

* 程度の副詞 動詞や他の副詞、名詞が主となる文節を修飾することもある。

水を もっと 飲みなさい。

もっと しっかりと 歩きなさい。
「動詞（||用言）を修飾」

もっと 前に 来なさい。
「他の副詞を修飾」

「名詞を修飾」

* 陳述（叙述）の副詞 決まった表現とともに用いられることを呼応という。

陳述の副詞で呼応するのは、一つの表現に限らない。

たぶん 午後 雨が 降るでしょう。
／降るのではないか。

「予想や想像を表す言葉」

もし 外国に 行ったら 友達を たくさん つくりたい。／行くなら 暖かい 国を 訪ねようと 思う。

「条件を表す言葉」



3 なぜ行かないのか。

[疑問]

連体詞の性質

連体詞は、自立語で活用がなく、文の中では専ら、体言が主となる文節を修飾する連体修飾語になる。

例 1 川上から大きな木が流れてきた。

2 ある日、その犬と旅に出た。

3 世界中のあらゆるところを訪ねた。

4 彼はたいした人物になった。

接続詞の性質と分類

接続詞は、自立語で活用がなく、文の中では専ら、前に述べた事柄とあとに述べる事柄をつないで、その二つの事柄の関係を示す接続語となる。

● 接続詞の分類 接続詞による接続の仕方によって、順接、逆接、並立・累加、説明・補足、対比・選択、転換の六種類に分けられる。

例 1 私は理科が好きだ。だから、将来は科学者になりたい。 [順接]

2 風邪をひいた。でも、熱は出なかった。 [逆接]

3 はじめに砂糖を加えます。それから、塩を加えます。 [並立・累加]

4 昨日は欠席した。なぜなら、熱があったからだ。 [説明・補足]

*こそあと言葉 こそあと言葉（指示する語句）の中には、連体詞や副詞が含まれている。

● この長い休暇をどう過ごす
連体詞 副詞

*接続詞の性質 次のような言葉は接続詞ではないが、接続詞と同じはたらきをしていて接続語となる。

- そうだとすれば／そうだとすると [順接]
- その反面／その一方 [逆接]
- それと同時に／これとともに [並立・累加]
- なぜかというと／要するに [説明・補足]



感動詞の性質

- ⑤ 紅茶に しますか。それとも、コーヒーに しますか。 [対比・選択]
- ⑥ この問題はここまでとします。では、次に進みましょう。 [転換]

感動詞は、自立語で活用がなく、文の中では専ら独立語になり、応答・挨拶・呼びかけ・感嘆などを表す。

- 例
- ① ええ、そうです。 [応答]
 - ② おはよう、今日も いい天気だね。 [挨拶]
 - ③ ねえ、これから どうする。 [呼びかけ]
 - ④ ああ、きれいだなあ。 [感嘆]

- どちらかというど／それに対して [対比・選択]
- 話は変わるが／それはそれとして [転換]

確認しよう

練習問題

2

単語の類別・品詞／副詞・接続詞

- 1 次の各組の単語の中で、他の単語と品詞が異なるものを一語ずつ選ぼう。
- ① 赤 白 黒い 茶色 薄紫
 - ② 優しい 明るい 透明だ 固い うまい
 - ③ 歩く 運動する 雨がえる ジャンプする

- 2 次の文の——線部の副詞に注目して、()に入れることができる言葉を考えよう。
- ① この仕事は 決して 人には頼め ()。
 - ② 姉と猫のタマは まるで 姉妹の () 仲間がいい。
 - ③ どうやら 一組が 三対二で 勝っている ()。

- 3 次の文の「 」内に示した接続詞をそれぞれ選び、つながり方を説明しよう。
- ① 精いっぱいがんばった。「しかし／だから」 準優勝だった。
 - ② 電車が遅れた。「そのため／そのうえ」 集合時刻に遅れた。